

2017年8月30日

各位

会社名 富士フイルムホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 助野 健児
 (コード番号：4901 東証第一部)
 問合せ先 経営企画部
 コーポレートコミュニケーション室長
 吉澤 ちさと
 (TEL：03-6271-1111)

新CSR計画「サステナブル バリュー プラン(Sustainable Value Plan) 2030」 策定に関するお知らせ

当社は、2030年度を最終年度とする新CSR計画「サステナブル バリュー プラン (Sustainable Value Plan) 2030」(以下、「SVP2030」)を策定しましたのでお知らせいたします。

当社は、2014年度から2016年度の中期CSR計画「Sustainable Value Plan 2016」を通じて、社会課題解決のための新たな価値を創出してきました。今回の「SVP2030」の下、革新的技術・製品・サービスの提供など、事業活動を通じた社会課題の解決により一層取り組み、サステナブル社会への実現にさらに貢献する企業を目指します。

昨今、国際社会では社会課題の解決を目指した長期目標が相次いで発表されています。2015年9月に国連が採択した持続可能な開発目標(SDGs[※])では、2030年に向けて国際社会が取り組むべき社会課題として17の目標が掲げられています。また、2016年11月に発効した地球温暖化対策「パリ協定」では、「地球の気温上昇を産業革命前から2℃未満に抑える」ことを目標に、各国が取り組むことが合意されました。

今回の「SVP2030」は、SDGsやパリ協定など、社会課題解決に関する目標達成への貢献を目指し、2030年度を最終年度とする新CSR計画です。「SVP2030」は、「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける環境・社会への配慮」の両面から、「環境」「健康」「生活」「働き方」の4重点分野を設定。さらに、グローバルに事業を推進していくうえで、サプライチェーン全体にわたる環境・倫理・人権などのCSR基盤強化に加え、オープン、フェア、クリアな企業風土のさらなる浸透を目指すガバナンス強化を盛り込みました。

「環境」分野ではCO2排出量と水資源について2030年度の数値目標を設定しました。CO2排出量では、「自社製品のライフサイクル全体での排出量2013年度比30%削減」と同時に、2017年度から2030年度までに排出するCO2累積量と同等レベルをオフセットするために設定した「自社製品・サービスの普及による社会でのCO2排出削減量5,000万トンへの貢献」に取り組みます。また水資源についても、富士フイルムグループ全体の水投入量を2013年度比30%削減し、2030年度に3,500万トン以下に抑制。さらに、水処理に活用される高機能材料やサービスなどの提供により、社会で年間3,500万トンの水処理に貢献し、2030年度には事業活動による環境負荷と同等レベル以上の環境貢献を目指します。

「健康」分野では「ヘルスケアにおける予防・診断・治療プロセスを通じて健康的な社会を作る」、「生活」分野では「生活を取り巻くさまざまな社会インフラをハード、ソフト、マインドの面から支える」、



【「SVP2030」の考え方】

「働き方」分野では「自社の働き方変革を、誰もが『働きがい』を得られる社会への変革に発展させる」ことを目指していきます。これらに重点的に取り組むことで、事業を通じた社会課題の解決を図ります。

富士フイルムグループは、「SVP2030」を推進し、製品・サービス・技術開発などを通じて新たな価値を創出することで、社会課題の解決に貢献し、企業価値向上を図っていきます。

※ 2001年に定められたミレニアム開発目標(MDGs)を引き継いで、2015年9月に国連総会で採択された新たな持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」をスローガンに、2030年までに国際社会が社会課題として取り組むべき17の目標と169のターゲットを定めている。

【「SVP2030」の重点課題】

(1) 「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける環境・社会への配慮」の両面から取り組む4分野

①「環境」： 自らの環境負荷を削減すると共に環境課題の解決に貢献する

- 重点課題
- 1 気候変動への対応
 - 2 資源循環の促進
 - 3 脱炭素社会の実現を目指したエネルギー問題への対応
 - 4 製品・化学物質の安全確保

課題解決に向けた施策例：省エネ性が高いデータアーカイブ用途の磁気テープや、水処理に活用するフィルトレーション材料の普及

②「健康」： ヘルスケアにおける予防・診断・治療プロセスを通じて健康的な社会を作る

- 重点課題
- 1 アンメットメディカルニーズへの対応
 - 2 医療サービスへのアクセス向上
 - 3 疾病の早期発見への貢献
 - 4 健康増進、美への貢献
 - 5 健康経営の推進

課題解決に向けた施策例：アルツハイマー型認知症の予防・診断・治療法や、がん・感染症の治療薬の開発

③「生活」： 生活を取り巻くさまざまな社会インフラをハード、ソフト、マインドの面から支える

- 重点課題
- 1 安全、安心な社会づくりへの貢献
 - 2 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献

課題解決に向けた施策例：橋やトンネルなどの構造物の点検作業を効率化する社会インフラ画像診断サービスや、思い出をカタチにする写真製品の提供

④「働き方」： 自社の働き方変革を、誰もが「働きがい」を得られる社会への変革に発展させる

- 重点課題
- 1 働きがいにつながる環境づくり
 - 2 多様な人材の育成と活用

課題解決に向けた施策例：働き方改革を支援する新概念「Smart Work Gateway」の実現に向けたソリューションサービスの提供

(2) サプライチェーンに関する重点課題：

環境・倫理・人権などのCSR基盤をサプライチェーン全体にわたり強化する

(3) ガバナンスに関する重点課題：

オープン、フェア、クリアな企業風土を浸透させることで、ガバナンス体制を改善・堅持する

以上